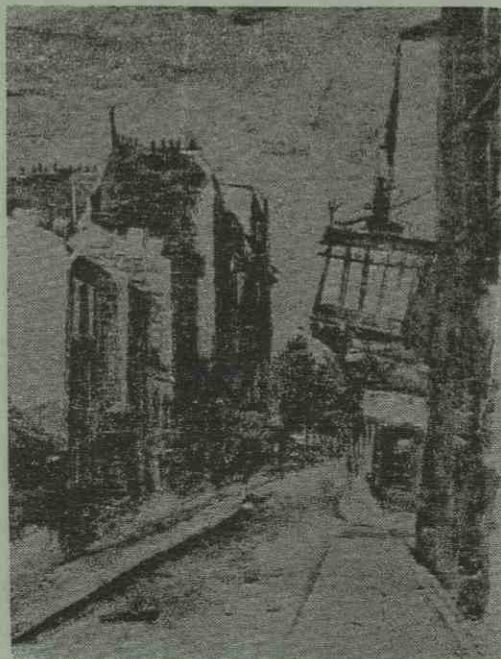


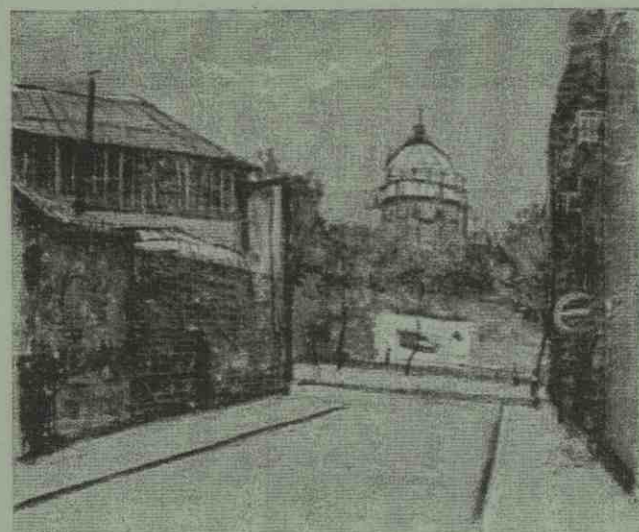
横手貞美「村役場前ノ家」



横手貞美「少女半身像」



横手貞美「並木二続ク坂」



横手貞美「巴里市風景」

生誕110年記念

郷土の天才画家 横手貞美展

ごあいさつ

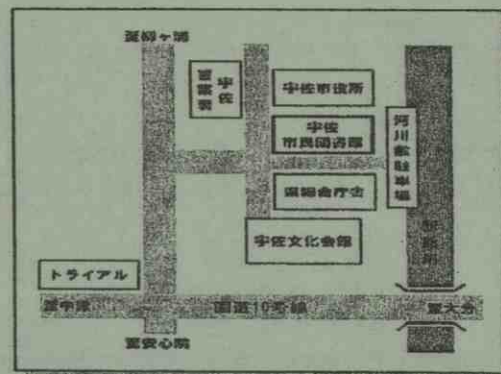
横手貞美(1899~1931)の本籍は宇佐市(旧、宇佐郡横山村)でしたが、司法官(判事)だった父の赴任先である宮崎市で生まれ、大分市で小学時代を過ごしました。14歳で父を亡くしたあと、長崎市で病院を開業していた兄・貞護のもとで中学生を送り、洋画に開眼。20歳で上京、28歳で渡仏。佐伯祐三、荻須高德ら、のちに近代絵画史に名を残すことになる先輩・友人らと切磋琢磨しながら旺盛な創作活動を展開しました。サロン・ドートンヌに入選するなど、その才能を発揮しましたが、惜しくも31歳の若さで病気のためパリで客死しました。現在は、市内末にある横手家墓地に眠っています。

今回、生誕110年(2009年)の節目を迎えるにあたり、その業績を振り返るべく、ふるさと宇佐ではじめての「横手貞美展」を開催することになりました。

企画にあたり、尼子かずみ氏(『沈黙のしずく 画家・横手貞美の生涯』著者)、湯地治氏(貞美の姪)、田口明美氏(治氏の御息女)、伊藤宏士氏、別府大学、豊の国宇佐市塾の協力をいただきました。感謝申し上げます。

平成20(2008)年12月13日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成21(2009)年2月3日/発行・宇佐市民図書館
大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600

生誕110年記念

郷土の天才画家 横手貞美展

Sadamu Yokota, Sadamu Yokota, Sadame Yokota, Sadame Yokota



晩年、療養所に持ち込んだクロッキー手帳に描かれた自画像

2008.12.13~2009.2.22

(2/3 から一部展示入替え)

10:00~18:00(日曜のみ ~17:00)
休館日...毎週月曜日・月末木曜日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



パリの横手貞美

〈横手貞美年譜〉

1899(明32) 0歳 10月2日、司法官(判事)である父・嘉一の赴任先である宮崎市で出生。本籍は、大分県宇佐郡横山村(現、宇佐市大字末)。
 1906(明39) 7歳 父が大分区裁判所赴任のため大分市に移り就学。
 1913(大 2) 14歳 10月、父死去。11月、長崎市銀屋町で耳鼻咽喉科医院を開業していた兄・貞護のもとに移住。
 1914(大 3) 15歳 私立海星中学(長崎)入学。フランス人図画教師・アルベールの指導を受ける。処女作「午後の光」を展覧会に出品(長崎図書館)。
 1919(大 8) 20歳 海星中学卒業後上京。小林萬吾の「同舟舎」、岡田三郎助の「本郷絵画研究所」で学ぶ。東京美術学校を受験したが、胸部疾患の後遺症を理由に不合格。
 1924(大13) 25歳 海老沢正治、甲斐宗平と「三人社展」開催(長崎図書館)。三人とも大分県出身。
 1927(昭 2) 28歳 9月、パリ留学のため、フランスMM社アトスⅡ号で出発。荻須高德、山口長男、大橋了介同行。10月29日、リヨン駅到着。午後、佐伯祐三と初対面感激する。11月、高野三三男宅にて藤田嗣治夫妻に会い、荻須、山口と一緒に過ごす。12月、リュ・ダゲールのアトリエに引っ越し。向井潤吉と知り合う。
 1928(昭 3) 29歳 2月下旬、佐伯一家(祐三、米子夫人、娘彌智子)と大橋、荻須、山口と7人でパリ郊外モランヘスケッチ旅行。1日に2、3点主義の制作活動。3月、佐伯祐三嗜血、発病。5~6月、佐伯の看病に仲間と献身。8月、佐伯祐三死去。9月、佐伯と娘彌智子(8月30日死亡)2人の遺骨を抱いて帰国する米子夫人を荻須、山口、大橋とマルセイユに送る。10月、サロン・ドートンヌに「アトリエの中庭」(入選)、「広告のある裏通り」を出品。冬、寒波を避け、南仏カーニュへ転地。林重義、竹中郁と交流。
 1929(昭 4) 30歳 サロン・ドートンヌに「新聞雑貨店」、「書籍雑貨店」出品。作品が評価され、新聞に評が出たり、作品購入についての問い合わせがある。
 1930(昭 5) 31歳 9月末、結核のため病牀に臥す。10月、パリ市立ブールゼ病院に入院。12月、スイス国境に近いオートヴィル療養所へ転院。横隔膜神経切除、小康を得る。
 1931(昭 6) 31歳 3月21日、胸部切開手術。22日午前2時死去(31歳)。推名其二の手により、リヨンにて火葬。4月、パリで追悼会(パリ日本人倶楽部)。9月・10月、第18回二科展に8点特別展示(東京府美術館)。9月彼岸、中村恒夫により遺骨が神戸に帰着。郷里大分県宇佐市大字末の横手家墓地に埋葬される。法名「仏業院釈貞美居士」。横手貞美滞欧遺作展(創画会主催、長崎公会堂)、『故横手貞美滞欧遺作集』(山口長男撰、横手貞護・横手貞致編)刊行。

生誕110年記念

郷土の天才画家 横手貞美展

出品目録

【横手貞美・原画】 計17点(※印作品は2/3から展示)

- 横手貞美「自画像」(1925年、渡欧前作品 油彩・カンヴァス 72.5×60.0 個人蔵)
- 横手貞美「須磨の風景」(渡欧前作品 油彩・カンヴァス 33.5×44.5 個人蔵)
- 横手貞美「村役場前ノ家」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×72.5 個人蔵)
- 横手貞美「曲り道」(1928年 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 個人蔵)
- 横手貞美「ヴェイトイユ風景」(1929年 油彩・カンヴァス 72.5×60.0 個人蔵)
- 横手貞美「新聞雑貨店」(1929年 油彩・カンヴァス 60.5×73.0 個人蔵)

※サロン・ドートンヌ出品作品

- 横手貞美「手風琴」(1930年頃 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 個人蔵)
- 横手貞美「煉瓦の二階家」(1930年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 個人蔵)
- 横手貞美「巴里市風景」(1930年頃 油彩・カンヴァス 67.0×79.0 別府大学蔵)
- 横手貞美「瓶」(渡欧前作品 油彩・板 33.0×23.0 個人蔵)※
- 横手貞美「ギター」(1924年頃 油彩・板 33.0×23.0 個人蔵)※
- 横手貞美「静物」(渡欧前作品 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 個人蔵)※
- 横手貞美「人形たち」(渡欧前作品 油彩・カンヴァス 33.0×45.5 個人蔵)※
- 横手貞美「少女半身像」(1930年頃 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 個人蔵)※
- 横手貞美「文房小店」(1930年頃 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 個人蔵)※
- 横手貞美「アパルトマン14区」(1930年頃 油彩・カンヴァス 65.0×54.0 個人蔵)※
- 横手貞美「並木二続ク坂」(1930年頃 油彩・カンヴァス 67.0×79.0 個人蔵)※

【横手貞美・スケッチブックほか】 2点

- 横手がオートビルの療養所へ持ち込んだクロッキー帳(27cm×20.5cm)
- 横手渡欧前のスケッチブック(14cm×19cm)

【横手貞美・参考作品(写真)】 6点

- 横手貞美「モランの教会」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 親和銀行長崎支店蔵)
- 横手貞美「ガラージュ」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.5 長崎県美術館蔵)
- 横手貞美「アトリエの中庭」(1928年 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 長崎県美術館蔵)
- ※サロン・ドートンヌ入選作品
- 横手貞美「モンデール寺院」(1930年 油彩・カンヴァス 92.4×73.7 長崎県美術館蔵)
- ※サロン・ドートンヌ出品作品
- 横手貞美「フランス革命記念祭の集い」(1930年 油彩・カンヴァス 80.0×120.0 長崎県美術館蔵)
- 横手貞美「ピロート服の女」(1928年 油彩・カンヴァス 88.5×64.0 長崎県美術館蔵)

【横手貞美関係資料内容紹介】 4点

- 横手貞美→大橋了介 絵葉書8枚(1928~1930)
- 折屋九秋「横手貞美渡欧日記」連載複写綴・全25回(長崎新聞・1971.7.12~9.2)とその関係書簡
- 横手貞美追悼会報告の手紙・複写(兄貞護宛て)。荻須高德筆。クロッキー帳に書かれた短歌二十五首

生誕110年記念

郷土の天才画家 横手貞美展

出品目録

【横手貞美関係の写真】 7点

横手貞美(2種) / 左より横手(湯地)治(姪)、横手貞美、横手貞嘉(甥) / 前列左より横手貞嘉、貞人(兄)、治、敏子、初瀬、後列左より貞美、貞致(弟) / 横手貞美の墓(宇佐市大字末) / 横手の書簡に同封されていたもの。1928年頃。モランにて。左から佐伯祐三、荻須高德、山口長男、横手貞美。 / 横手貞美君追悼会(1931年4月11日、パリ日本人倶楽部にて) / クロッキー帳の自画像蔵)

【関係者プロフィールと参考作品(写真)】 11点

- 佐伯祐三(さえき・ゆうぞう) 1898~1928 プロフィール
- 佐伯祐三「モランの寺」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 東京国立近代美術館蔵)
- 佐伯祐三「ロシアの少女」(1928年 油彩・カンヴァス 65.3×53.5 大阪市蔵)
- 大橋了介(おおはし・りょうかい) 1895~1943 プロフィール
- 大橋了介「モランの教会」(1928年 油彩・カンヴァス 60.2×73.2 大阪市蔵)
- 大橋了介「古い家のポスター」(1930年後頃 油彩・カンヴァス 61.0×73.0 東京国立近代美術館蔵)
- 荻須高德(おぎす・たかのり) 1901~1986 プロフィール
- 荻須高德「サン・ジェルマン・シェル・モランの教会」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 「パリを描いた画家たち」図録より)
- 荻須高德「パリの並木道」(1930年頃 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 小野コレクション蔵)
- 山口長男(やまぐち・たけお) 1902~1983 プロフィール
- 山口長男「顔」(1930年 油彩・カンヴァス 41.0×33.0 板橋区立美術館蔵)

【書籍・パンフレット類】 13点

- 『故横手貞美滞欧遺作集・全』(横手貞護、横手貞致・1931)
- 山口長男「佐伯と四人の画学生」『芸術新潮』(新潮社・1970.6)
- 荻須高德『私のパリ、パリの私 荻須高德の回想』(東京新聞出版局・1980)
- 『目黒区美術館所蔵作品目録』(目黒区美術館・1988)
- 『目黒区美術館所蔵作品選』(目黒区美術館・1988)
- 『パリを描いた画家たち 佐伯祐三・横手貞美・大橋了介・山口長男』(芦屋市立美術博物館・1991)
- 『パリを描いた画家たち展』(長崎県立美術博物館だより 第114号・1991.9)
- 『大橋了介・エレナ展』(芦屋市立美術博物館・1993)
- 『佐伯祐三』(新潮美術文庫・1997)
- 朝日晃・野見山暁治『佐伯祐三のパリ』(新潮社・1998)
- 『生誕100年記念 荻須高德展』(朝日新聞社・2001)
- 『長崎の肖像・続』阿野露団(形文社・2002)
- 『佐伯祐三とパリの時代展』(鹿児島市立美術館・2003)
- 尼子かずみ『沈黙のしずく 画家・横手貞美の生涯』(郁朋社・2007)
- 「パリを描いた画家たち展」チラシと招待券(4点)

【合計60点】